



玉諸小学校だより

# 学びの庭

校歌一番の一節より…

玉諸小学校長 丸茂 明彦

## 本校の学力・学習状況について

本年度も文部科学省によって、全国学力・学習状況調査が、4月18日（火）に全国の小学6年生と中学3年生を対象に実施されました。

ここで気をつけたいのは、文部科学省でも「この調査は、順位付けや優劣をつけることを目的としたものではない」といっていることです。この調査は、子供たちの学力や学習の現在の状況を把握し、学習指導や生活指導の改善に役立てることを目的としています。この点を十分にご理解いただけますようお願いいたします。

まず、調査内容は次のとおり、大きく分けて2項目です。

- 教科（国語・算数）に関する問題
  - 【A】 問題→主として「知識」に関する問題  
（基礎問題といえる）
  - 【B】 問題→主として「活用」に関する問題  
（応用問題といえる）
- 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

本校でも、運動会等の学校行事への取組に並行して、文部科学省から送付されてきた調査結果について、教務主任を中心に分析を進めてきました。その分析結果がまとまりましたので、参考として全保護者の皆様にお知らせいたします。合わせて、この紙面と同内容のものを、学校ホームページ及び地域の組回覧等でもお知らせする予定です。

なお、6年生保護者の皆様には、例年どおり、個別懇談の折に、一人一人の結果についてご説明しながら個人票をお渡しするとともに、お子様のがんばっている点や、今後の課題となる点について、お話しをさせていただく予定であります。

### 分析結果の概要

調査問題、国・県・市の分析結果などもネット上にあるのでご参考に…

#### 1 本校の状況（教科に関する問題）

**国語** 【A】 全国や県とほぼ同等。

【B】 全国や県とほぼ同等。

**算数** 【A】 全国や県とほぼ同等。

【B】 全国や県平均にやや届いていない。

という結果でした。

正答率について、国や県の分析でも示されていますが、±5%以内の差であれば、ほぼ同等の成績であると判定されています。

## 2 本校の主な課題とその克服に向けて

算数でも国語でも、問題によって、全国平均をかなり上回るものもあれば、逆にかなり下回るものもありました。得意とするところを伸ばしつつ、苦手とするところを少しずつこ入れしていくことが必要となってきます。(傾向としては、概ね甲府市の分析と共通します)

### 国語【A】

●「話すこと・聞くこと」特に「互いの話を聞き、考えの共通点や相違点を整理しながら、進行に沿って話し合う」を苦手としている。

→授業の中でも積極的に話し合い活動を取り入れ、聞く際のポイントを理解させたり、友達の意見との共通点・相違点などをメモできるようなワークシート・ノートの工夫を行ったりして、話し合い活動において必要な「聞くための技術」を伸ばす。

●「手紙の構成を理解し、後付けを書く」

→授業の中で教えて終わりではなく、実際に封書で送るという取組を行い、必要感を持たせる工夫を行えるようにする。(「敬老の日」の手紙や「校外学習の礼状」等)

●「漢字を正しく書く(参加たいしょう)(箱がおいてあります)」

→昨年度と比較すると、漢字の正答率は、全国平均に近づいてきている。さらに、漢字の意味や同音異義語に注意するようにさせていく。語彙を増やすためには、中学年の頃から宿題でも意味調べを行わせ、高学年までに日常的に国語辞典や漢和辞典を活用する習慣を身につけさせていく。

### 国語【B】

●無答率がいまだに多い。あきらめずに最後まで取り組む姿勢を指導していく。

●「物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめる」

→考えを進める際の見通しを持たせることを普段から取り入れていく。さらにメモをとらせて考えがぶれないようにするなどの工夫も効果的である。また一朝一夕には身につけにくいので、中学年の頃から理由を考えさせることを、学級会や朝のスピーチなどでも意図的に取り組むことが重要である。

### 算数【A】

「数と計算」・「図形」で県・国の正答率とほぼ同じ正答率であり、標準的な力を身につけていると言えるが、「量と測定」「数量関係」を苦手としており、基礎・基本の定着に課題が見られる。

●「商を分数で表すことができる」

→筆算で小数で答えがちであるので、分数で解答することを習慣づけたい。

●「加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることができる(6 + 0.5 × 2)」

→四則の混合した式や( )を用いた式について理解を徹底させる。概算で見当をつける等、図を描いて考えながら解いたり、見直しで気付いたりすることができるよう、日頃から意識させる。

●「高さが等しい平行四辺形と三角形について、底辺と面積の関係を理解している」

→三角形の底辺上の垂直線と頂点が交わるものだけを、高さとして認識している誤答が正答の次に多い。理解不足と見落としの両面から指導が必要である。

●「資料から、二次元表の合計欄に入る数を求めることができる」

→資料の整理の仕方や表に示された数値が適切だったのかを、合計欄から確かめる活動が考えられる。実際に資料から二次元表を作成する活動を通して、試料の数と二次元表の合計欄の数が同じになることを確認させるようにしたい。

## 算数【B】

- 「問題に示された二つの数量の関係を一般化して捉え、そのきまりを記述できる」  
→算数の問題場面から見いだした数量の関係を一般化して表現する学習を充実する。難しいことではなく、「既習学習が考える際のよりどころになる」ことを児童が実感し、新しい単元でも能動的に考え、公式を話し合いながら導き出せることを普段から実感できるような学習を仕組む。
- 「直線の数とその間の数の関係に着目して、示された方法を問題場面に適用することができる」  
→指導に当たっては、日常生活の中に算数の考え方が生きていることを実感できるようにする。日常生活の事象を数理的に捉えようとする態度を育てることが必要である。
- 「仮の平均を用いた考えを解釈し、示された数値を基準とした場合の平均の求め方を記述できる」  
→平均をもとめる際の条件や、ならずという意味について復習し、単に「合計を割れば良い」というだけでなく、平均をもとめる際、必要な数・必要ない数を取捨選択できるようにすることが大事になってくる。測定値の平均を求める際、平均がおよそどのくらいになるのかを見積もったり、能率的に処理するために工夫して計算したりすることの指導も大切にする。

### 3 生活習慣や学習環境についての質問紙調査から見る本校の児童の姿

#### 全国や県と比較し良好と思われる項目

(自己肯定感の高さ・前向きな姿勢)

ものごとを最後までやり遂げてうれしかった／自分にはよいところがある／将来の夢や目標を持っている／学校のきまりを守っている

(学校に対して肯定的な考え)

学校に行くのは楽しい／学校で友達に会うのは楽しい／先生はあなたのよいところを認めてくれる／先生は授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる

自己肯定感の高い児童が多く、やる気をもって学校生活を送っている。挑戦する気持ちが高く、自分を受け入れてくれるクラスの仲間が存在することの表れといえる。また9割強の児童が教師に対して肯定的に捉えており、県・国に比べてもかなり上回っている。

(基本的生活習慣の改善傾向)

○本校の問題点に挙げられていたテレビの長時間視聴は減ってきている。国や県と比しても視聴時間は短い傾向にある。

・普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを視聴するか

（経年変化）3時間以上の視聴（H27）30% →（H28）28% →（H29）13%

○ゲーム等をする時間については、3時間以上する子は全国より少なく、1時間未満は多い。さらに家族で決めたルールを守っている率も、県・国よりも高い。

これまで課題であった生活習慣については、かなり改善の傾向が見られるようになってきた。今後も学校・家庭が連携し、学習基盤をしっかりと作っていききたい。

## 全国や県と比較し課題と思われる項目

(家庭学習について)

6年生は、今後中学進学に向けて、自主学習にどのように取り組んでいけばよいかの指導に力を入れ、更なる学習習慣の確立と、主体的に学習する楽しさを教えていく。

(社会に目を向けることについて)

社会事象等に興味が薄いので、身近な新聞・テレビ等への感想を持たせる等の取組をする。

(授業に関して)

今後は話し合い活動を積極的に取り入れ、まずは考える際の根拠の示し方などを教えること、友達の考えを聞いてさらに自分の考えを深める機会を作ること等、授業の工夫をしていく。

## 家庭での学習習慣づくり

今までと同様に、宿題以外の学習としては、「家庭学習の手引き」にもありますとおり、家庭での学習時間は、(学年)×10分～(+10分)をめやすとしていただきたいと思います。たとえば、6年生では、6×10分～(+10分)ですので、60～70分を目標としてほしいところです。学校でも、さまざまな手立てを講じているところですが、ぜひ各ご家庭でも温かい声かけをお願いいたします。

◆◇ しめくくり ◆◇ 昨年度と同内容ですが…

今年も、全国学力・学習状況調査の結果の概要を以上のとおりお知らせいたしました。

その結果、昨年度までと同様に、学力面については全国・全県の平均と比較しても、ほぼ同等であり、「これは困った」といったレベルではありませんでした。だからといって、「これでいい」という状況であるとも言えません。良かったところは素直に喜ぶとともに、反省すべきところは反省し、今後の糧としていく必要があります。その点では、「チーム玉諸」のあるべき姿として、学校全体としても、教師一人一人としても、「少しでも子供たちのために」という原点を忘れずに、毎日の指導にあたっていく気構えでおります。

ところで、これだけの大人数の子供たちが、静かに体育館に集まれる姿、前に立った人の話を目を見て聞ける姿。これを学力・学習状況調査の中では測ることができません。このように、この調査では測ることのできない良い点が、本校の子供たちには多々あります。これを維持し向上させていくためには、学校での指導はもちろん、保護者の皆様、地域の皆様の温かい支えが必要となります。しかし、子供のことでありますから、いたずらや不適切な言動もあるかと思えます。そのような折には、厳しい声掛けもお願いできたらと考えております。そのようにして、「われらが玉諸小の子供たち」を見守ってくださることを切に願っております。